

# 沼尻鉱山

## 硫黄を運んだ鉱山から湯を運ぶ源泉地へ



沼尻鉱山は、福島県猪苗代町・安達太良山西側に広がっていた日本有数の硫黄鉱山です。江戸時代には会津藩と二本松藩が鉱山権をめぐる争い、明治期に入ると民間による本格的な採掘が始まりました。1900年(明治33年)の安達太良山噴火では大きな被害を受けましたが、その後復興し、最盛期には年間一万トンを超える硫黄を産出しました。

画像(上)は、明治の終わりから大正初期にかけての沼尻鉱山の様子で、硫黄採掘の現場や、採掘した鉱石を搬出するための小型鉄道が写されています。当時は山中に広大な採掘場と精錬所があり、人々の暮らしもこの周辺にありました。その後、1960年代に石油精製の副産物から硫黄が大量に流通すると価格が下落し、鉱山は閉山(1968年)に追い込まれました。

現在、この鉱山跡は中ノ沢温泉や沼尻温泉の源泉エリアとなっており、山腹から温泉街につながる湯樋が敷設されています。現在の風景には、その温泉パイプが山肌を横切り、かつての鉱山跡地が新たに温泉文化を支える役割を担っていることが見て取れます。

出典: 会津若松市デジタルアーカイブ [画像(上)] 撮影年代 = 1910~1920年代ころ



特別保護地区 特別地域 普通地域 JR 私鉄 高速道路 観光道路